

## 妊産婦等を取り巻く社会環境の整備について

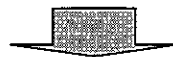
## 1 「健やか親子21 検討会報告書」における位置づけ

- 「健やか親子21 検討会報告書」（平成12年11月）においては、妊娠・出産の安全性と快適さの確保に関する取組の方向性として「妊婦に対して理解のある家庭環境や職場環境の実現、受動喫煙の防止、各種交通機関における優先的な席の確保等の社会システムづくりや国民各層、産業界への啓発がより一層求められる。」としている。
- さらに、同報告書においては、その具体的な取組の一つとして「妊娠初期の妊婦に対する社会的配慮を喚起するための方策として、妊婦バッジの普及の試みも意味がある。」としている。



## 2 バッジ等普及の取組例について

- 妊娠初期には、外見からは妊娠していることが分かりづらく、周囲から理解が得られにくいことから、妊婦であることが分かるようなマークをあしらったバッジ等が作成されている。これらのバッジ等は、民間で販売されたり、一部の自治体で配布されている。
- こうした取組については、最近、新聞紙上においても報道されている。（参考資料4参照）



## 3 検討課題について

- バッジ等の取組について、今後どのように普及を図るか。
- 「健やか親子21 検討会報告書」で示している、妊産婦等を取り巻く環境の整備に関して、今後特に考慮すべき具体的な取組課題があるか。